

Ⅲ 「事業部」の実践研究

1 「事業部」の研究

(1) 事業の研究方針および研究内容

(2) 事業の計画

2 「研修講座」の概要

(1) 研修講座

(2) 次年度への展望

「事業部」の所員

部長 武石 志津子 (翔陽 中学校)

副部長 関東 英政 (港北 中学校)

三上 友樹 (地球岬 小学校)

森田 一男 (海陽 小学校)

Ⅲ 「事業部」の実践研究

1. 「事業部」の研究

(1) 事業の研究方針および研究内容

事業部では、「室蘭市学力向上基本計画」に位置づけられている〈重点施策Ⅲ〉の事業⑧「教育研究所研修の充実」、事業⑨「教育研究所研修講座の充実」に基づき、研修体制の確立と充実を目指している。

事業⑧及び事業⑨では、教科指導や生徒指導等に熟練した経験豊かな教員などを講師に迎え、「確かな学力」を育むために必要な、本市の4つの課題である「学ぶ力」「学ぶ意欲」「学ぶ環境」「学ぶ関係」を伸長するための研修を充実することを目的としている。それに伴い、事業部では昨年度に引き続き「指導力の向上」を図る教職員のニーズに対応した各種研修講座の充実を実現するため、以下の2点を研究内容の視点と定めた。

【視点1】教職員が求める研修機会に関わる把握

前年度までに実施された研究講座に関わるアンケート等をもとに、どのような研修講座が必要であるかを把握し、教職員のニーズや教職経験に応じた研修講座の内容・形態・時期などについての計画推進に努める。

【視点2】「指導力の向上」に関わる研修講座の企画と運営

指導力の向上の土台や近道となるのはやはり「研修講座の充実」と考える。そこで、「学習の環境を整える」「指導技術の方策」「教科指導力の向上」のために、「教育環境講座」「生徒指導実践講座」「教科実技講座」として設定し企画運営する。

(2) 事業の計画

① 年次の事業計画

1 学期	2 学期	3 学期
◆ 教員のニーズ把握 ◆ 研修講座の企画・運営	◆ 研修講座の運営	◆ 研修講座の運営 ◆ 研究の成果と課題の整理 ◆ 次年度に向けてのニーズの把握と事業の見直し

教育環境講座	生徒指導実践講座	教科実技講座	まとめ
室蘭市内の各教育機関を活用し室蘭市の教育環境を広く理解する	学級経営を基盤とし、児童・生徒一人一人の能力を引き出しつつ問題解決に向けた実践から指導法を習得する	専門性の高い講師より、日常的に活用できる指導のポイントを学び確かな学力を目指す	各研修を通して、3年間の成果と課題の整理と、次年度に向けた事業の見直し。

② 研修講座の年間計画

回	期 日	講座名	対 象	備 考
1	5 月 30 日 (木)	研修講座 1「室蘭市の教育の課題と重点」	新採用 期限付任用教員 転入教職員	教育研究所
2	7 月 29 日 (月)	研修講座 2「学校における防災教育のあり方」	小中学校教職員	室蘭气象台
3	7 月 30 日 (火)	研修講座 3「臨床心理士の立場から見た児童生・保護者の実態」	小中学校教職員	翔陽中学校
4	7 月 31 日 (水)	研修講座 4「おもしろ理科実験」	小中学校教職員	青少年科学館
5	8 月 29 日 (木)	研修講座 5「小中学生のネット犯罪の実態とその対処における留意点」	小中学校教職員	翔陽中学校
6	1 月 14 日 (火)	研修講座 6「パソコン技術講座・エクセルの基礎」	小中学校教職員	海陽小学校

2、「研修講座」の概要

(1) 研修講座

①研修講座の実施内容一覧

回	講座名・期日・会場	ねらい・講師等	講座内容
1	「室蘭市の教育」の 課題と重点 5 月 3 0 日 (木) 1 4 : 3 0 室蘭市教育研究所	室蘭の教育を担う教職員として学校教育推進の課題と重点について理解するとともに、室蘭市教育研究所の概要について学び、今後の学級経営や学習指導内容に役立てる。 ◎説明・解説 北野 雄介 指導主事 (市教委) ◎解説 入江 祐史 事務局長 (研究所)	・室蘭の教育の課題と重点の説明と解説 ・室蘭市教育研究所の概要の解説
2	「学校における防災教育のあり方」 7 月 2 9 日 (月) 1 0 : 0 0 室蘭地方气象台	地震・津波等の避難訓練のあり方や、气象台の学校防災教育の支援内容を学び、自校での防災教育に生かす。 室蘭地方气象台 防災業務課火災防災官 新山亮二氏 総務課業務係長 石井高志氏	・室蘭地方气象台の業務内容 ・地震津波等を想定した避難訓練のあり方 ・学校における日常的な防災教育教材作り
3	「臨床心理士の立場から見た児童・生徒・保護者の実態」	教育相談やカウンセリングマインドの手法を学ぶことで、様々な生徒に対応した学級経営や生徒指導に生か	・子どもの学習やコミュニケーションがうまくいかない理由

	7月30日（火） 10:00 翔陽中学校	す。 翔陽中学校スクールカウンセラー 臨床心理士 宮川 愛 氏	・保護者との連携 ・他機関との連携の取り方
4	「おもしろ理科実験」 7月31日（水） 10:00 室蘭市青少年科学館	青少年科学館で行なっている科学実験等の中から理科の授業で活用できそうな実践を学び、授業に生かす。 室蘭市青少年科学館 指導員 南 穰 氏 金丸 良治 氏	実験 「流水のはたらき」 「液体窒素を使って」
5	「小中学生のネット利用の問題点とその対策について」 8月29日（木） 15:30 翔陽中学校	小中学生のネット問題の事例や、LINEの実態などを学び、教師が対応すべき問題について考える。 KDDI（株）北海道総支社管理部 マネージャー 村上 周平 氏	・ネットの個人情報漏洩問題、情報発信（悪口、いじめなど） ・スマートフォン利用の問題点
6	「パソコン技術講座・エクセルの基礎」 1月14日（火） 14:00 海陽小学校	表計算ソフト「エクセル」の基本的な活用法 室蘭市立八丁平小学校 教諭 榎林 哲也 氏	・テストの成績処理表作成 ・出席集計表作成

②成果と課題

【視点1】教職員が求める研修機会に関わる把握

教育の今日的課題をとらえながら、教職員に必要なスキルを習得するために所員で検討して講座を設定した。

事業後のアンケートによると参加者の満足度は概ね高かった。また、アンケートに多くの希望が回答されているということから、市内の教職員がスキルアップのために多くの研修の機会を求めていることが伺える。それらの声を参考にしながら、次年度もニーズにあった講座を開設できるように努めていかなければならない。

ただ、校務多忙でなかなか校外の研修に参加しづらいという声もある。開催時期や時間の工夫や早期周知等によって、市内の教職員が少しでも参加しやすい環境を整えることも課題の一つである。

【視点 2】「指導力の向上」に関わる研修講座の企画と運営

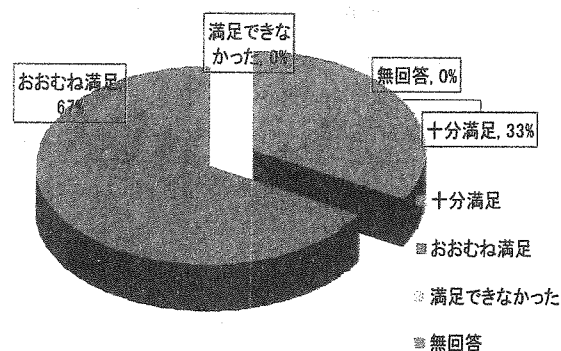
今年度は「教育環境講座」「生徒指導実践講座」「教科実技講座」の3種6講座を企画運営した。「防災教育」「生徒理解」「ネット問題」「理科教育」「パソコン実技」等さまざまな分野を網羅し、指導力の向上を図った。

研修講座の企画については、講演予算が確保されていないため、講師の選定にかなり制約がある中での講座の開設であり、結果、講師の選定にあたっては、多くの実践を積んだ先輩や公的機関の協力を仰ぎながらの実施になった。今後講師の問題を解決する一つの方法として、講演形式の講座だけでなく、ワークショップを取り入れたり、実践交流をするような講座も一つの方法であると考えられる。

●【研修講座 1】 「室蘭の教育」の課題と重点・「室蘭教育研究所」の概要

本年度も、主に新採用者や新たに室蘭市に転入した教職員を対象に講座を開講した。

北野指導主事から、まず「全国学力状況調査」と本市で行っている「標準学力調査」の結果からわかる、室蘭市の小中学生の学力・生活の実態が説明された。そして、本市の「学力向上計画」が説明され、学力向上に向けた本市の取組、その課題について理解を深めた。参加者からは、



「室蘭市全体の現状をとらえた上で自校の実態を把握していく事は大変意味がある」という声も聞かれ、室蘭市の教育の基本を理解するためには必要な講座であると考えられる。

次に、入江教育研究所事務局長から室蘭市教育研究所の概要が説明された。研究所の機能や役割、活動内容を理解し、本市の教職員として積極的に研究所を活用して教師力を高めるきっかけになることを期待している。

●【研修講座 2】 「学校における防災教育のあり方」

2011年の東日本大震災や、一昨年の暴風雪による大停電等を踏まえ、防災に対する意識が一層高まっていく中、防災教育の重要性が一段と増している。本講座は、室蘭地方気象台にて、防災業務課と総務課の方を講師に迎え、【気象庁の主な業務】【防災教育について（避難訓練時の支援・防災授業の支援・教師への防災授業の支援）】【施設見学】という3つの柱で実施された。

気象庁の主な業務には「観測業務」「予報業務」「地震・火山業務」「航空気象業務」がある。このうち、「観測業務」「予報業務」について、特に詳しい説明がなされた。観測業務では、《地

域気象観測（アメダス）の説明や、《ウインドプロファイラー》という上空に向けて電波を放ち、風を観測する機器の説明がなされた。予報業務では、天気予報のでき方について、データ（スーパーコンピュータで計算）と予報官の経験からなされていることが説明された。

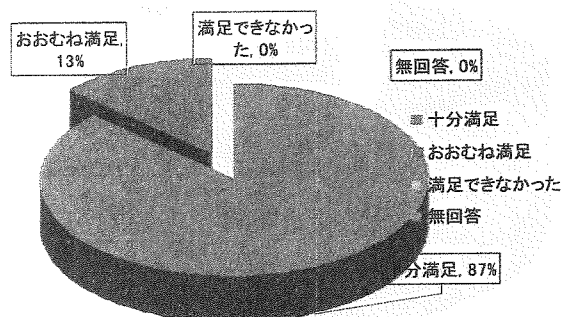


防災教育については、初めに、平成24年度・25年度の防災教育実施状況についての説明があった。避難訓練時の支援について、地震・津波等を想定した避難訓練のあり方として、気象台は、「地震や津波の避難訓練のシナリオ作成のサポート」「緊急地震速報を用いた避難訓練のサポート」「避難訓練時の講評や訓練終了後の防災講座の開催（津波防災啓発DVDの視聴やクイズ等を取り入れた防災講座・講評）」を行っている。

防災授業の支援については、現象に対しての備えを身に付けることをねらいとし、実験装置を用いて、竜巻発生や津波発生メカニズムを児童生徒に見せたり、クイズも取り入れたりして、参加型の授業をしている。実験項目は他に、液状化現象や火山噴火の仕組み等もあり、総合的な学習の時間に行っている学校が多い。教師への防災授業の支援は、気象台が防災教育において、実施に向けて現在最も力を入れている項目である。学校における日常的な防災教材作りにも力を入れており、「教科書の単元の授業で活用できる授業の学習指導案作りを教師と共に作成する」ことが、気象台の目指している防災教育である。今このような学習指導案作りを考えている、或いは、今後このような学習指導案作りをしたいと考えている学校・教員は、室蘭地方気象台に連絡がほしいということである。関連して、「札幌管区気象台HPに授業で活用できる防災の学習素材を掲載」「小学校の授業で使える緊急地震速報の研修会を開催」「津波防災啓発DVDの作成・各学校へ配布」等も行っている。

施設内見学では、様々な機器や情報端末等の説明を受けた。雨天のため、残念ながら屋外の観測機器の見学はできなかった。

その他、新しくなった津波警報の説明がなされた。学校は児童生徒の命を預かっていて、その命を守るためにも、防災教育のニーズが高まる中、本講座の開催はたいへん意義深く、気象台との連携を今後ますます強めていく必要を感じた。



●【研修講座3】 「臨床心理士の立場から見た児童生徒・保護者の実態」

翔陽中学校スクールカウンセラーの宮川愛氏を講師に迎えて、「臨床心理士の立場から見た児童生徒・保護者の実態」と題して、専門的立場からお話いただいた。宮川氏は、室蘭市近郊で、乳幼児から小学生の発達相談や、中学校・高校のスクールカウンセラー、成人のカウンセリングなど勤めておられ、幅広い年齢層に関わっていらっしゃる。一方、私達は「学校」というどちらかというと閉鎖的な空間で、児童・生徒やその保護者と関わるが多い。今回の講座を通して、より広い視点に立って児童・生徒の支援や指導をしたり、その保護者と対応したりしていく必要があると感じた。

講座の参加者は、小中学校の教諭、適応指導教室の訪問アドバイザーや相談員、学習支援員等と幅広く、30名近くであった。不登校児童・生徒の支援をされている訪問アドバイザーの方々と学校現場で働く教諭との、不登校児童・生徒に対する見方の違いなどを知ることができたり、幼・小・中・高との連携の大切さ、保護者との上手な関わり方など、たくさんのことを学ぶことができたりし、大変有意義な講座であった。

具体的には、「児童生徒の学習やコミュニケーションが上手くいかない理由、保護者との連携の工夫、他機関との連携の取りかた」についてお話いただいた。

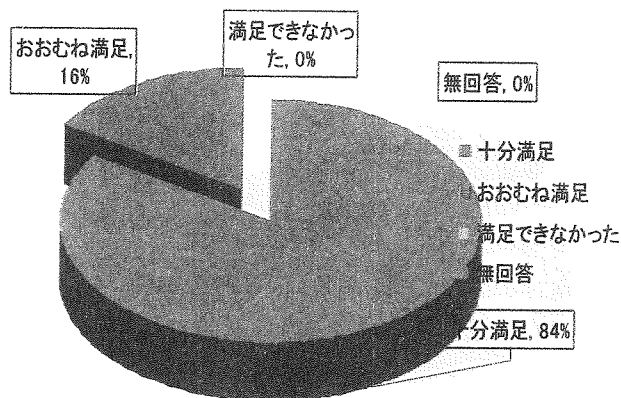
一つ目に、児童生徒の学習やコミュニケーションが上手くいかない理由や、学習や学習態度に課題がある児童生徒に対する支援の仕方などについてお話いただいた。又、事例をあげて「支援が本当に必要な児童・生徒なのか、怠惰なのか、その見極めの仕方やそのポイントなど。」について、日頃なかなか交流できない職種や立場の違う人と4～5人のグループに分かれて討議し、いろいろな立場での思いや願いを交流することができた。

二つ目に、「保護者との連携の工夫」では、最近の家庭の傾向や、保護者への対応のヒントなどを教えていただいた。保護者とのより良い信頼関係を築くためには、「保護者の思いは受け止めルールと理由は示すこと、学校のルールや教師の価値観を当てはめすぎないこと、職場として『誰が悪い』という視点に陥らずチームで考えチームで関わること」など、ちょっとした工夫や声かけで、保護者との対応がスムーズにいくことを学んだ。

最後に、「他機関との連携のとり方」についてお話いただいた。児童・生徒の過去を知り（養育歴など）、現在を支え（見逃している協力者がいたら連携を検討する）、未来に向けてより良い支援につなげられるよう「支援サークル」を確認することなどが、紹介された。特に、卒「義務教育」に向けて高校のスクールカウンセラーとしての立場でお話いただいたことは、高校での実態などを踏まえ、特に、不登校傾向や発達障害傾向の生徒に対して、「教室にいる力、大人

と関わる力、小さなグループで協調して自分を出す力」を育てることなど、高校入学までに押さえておきたいポイントや、中高の連携（情報提供など）がとても大切なことを学ぶことができた。

参加者からは、「専門的立場から具体的なお話をいただいて大変参考になった」「職種の違う方とのディスカッションは、自分自身を振り返る良い機会になった」など、満足の声を



たくさん得られた。発達障害の疑いがある児童・生徒は増加傾向にあり、そのような児童生徒への対応はチームで取り組むべき内容であるため、多くの教職員等に研修してもらう必要がある。それには、企画内容の工夫に加え、各校への講座案内の周知徹底が必要である。

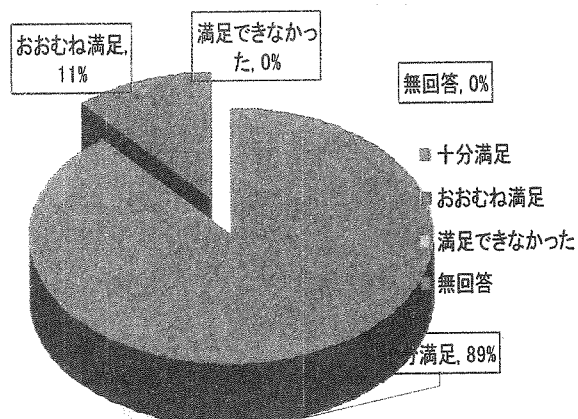
●【研修講座4】 「おもしろ理科実験」

理科の学習では科学的な見方や考え方を育成するため、観察・実験や自然体験、科学的な体験を充実させることが大切である。そこで、室蘭市青少年科学館の指導員を講師に招き、理科・

科学のおもしろさを教師自ら体験してもらおうと計画した。

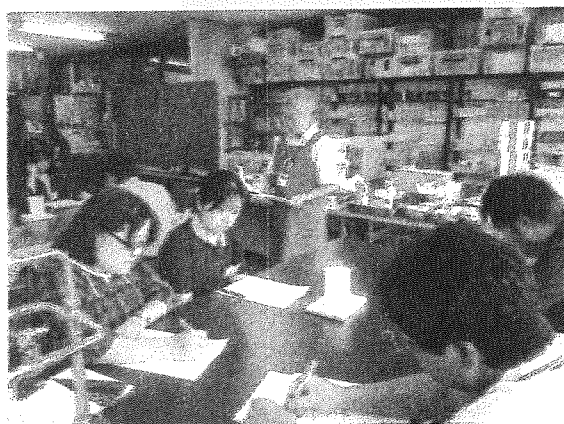
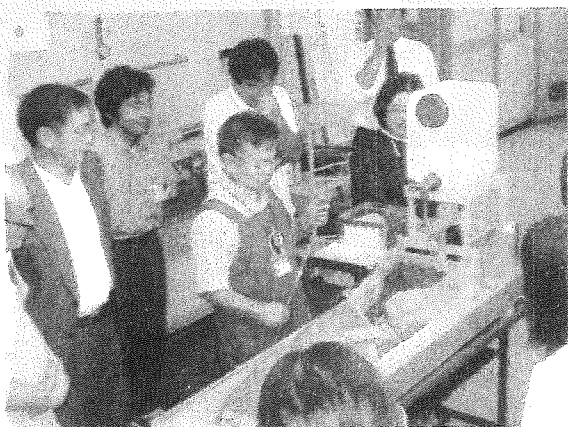
市内の小中学校から 26 名が参加し、大きく二つの実験を体験した。

一つは、「流水実験」。5 年生の「流れる水のはたらき」で砂場や畑などを利用し実験・観察するも、なかなかうまくいかないため、VTR などの映像で済ませてしまう授業が多かったと思われる。しかし、指導員自作の「流水モデル実験器」を使うことによって、川の流れや働き、浸食・運搬・堆積、V 字谷・扇状地・三角州などのでき方が一目で分かり、実感できた。しかも、実験器具の貸し出し可能とのことから、参加した先生方は、「子どもたちに実際に見せ体験させたい」と強く感じていたようだ。



もう一つは、「液体窒素を使った実験」。小中学校では液体窒素を使った学習はなく、学校でも取り扱うことはできないため、ほとんどの先生方が初体験だった。TV でしか見たことのない実験を目の当たりにすることで、指導者である先生方が実験の面白さ楽しさを実感することができた。

講師をしていただいた指導員からは、「科学館の人材や様々な教材など学校でも積極的に利用してほしい。」という言葉頂き、準備などが大変な理科のサポートしていただけることを知り心強く思えた。これからはこのような取り組みも大事になっていくのではないだろうか。

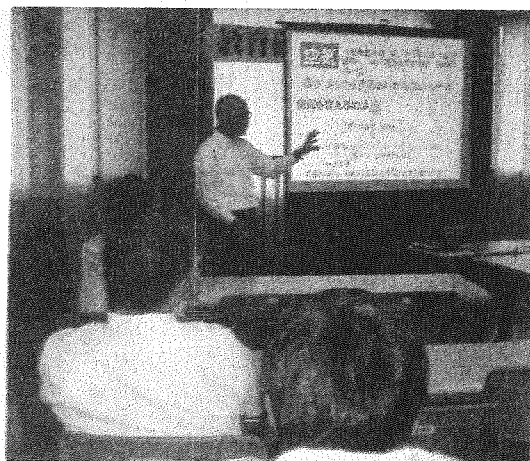
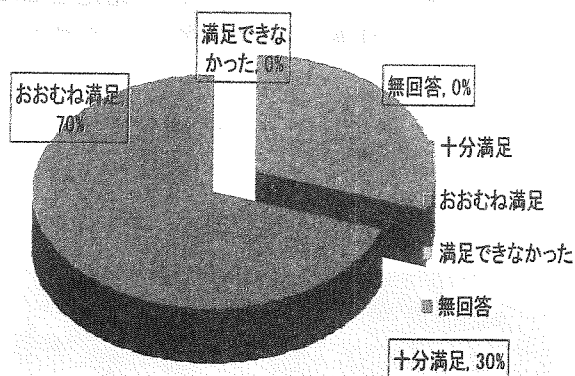


●【研修講座5】 「小中学生のネット利用の問題点とその対策について」

KDDIで行っている「ケータイ教室」を本研究所に招き、小中学生のインターネット利用の実態や問題点、そして今世の中に急速に広まり、子どもたちの中にさまざまな問題を引き起こしているLINEについて、そのシステムと問題点について理解を深めた。

インターネット利用にあたって、加害者が一瞬にして被害者になる事例や、スマートフォンの基礎知識などの説明があったが、インターネットをあまり利用していない人にとっては内容が難しく感じる場所もあったようだ。むしろ、このような教室（講演）の存在を知り、自校の情報モラル教育に活用していくきっかけとなることが期待される。

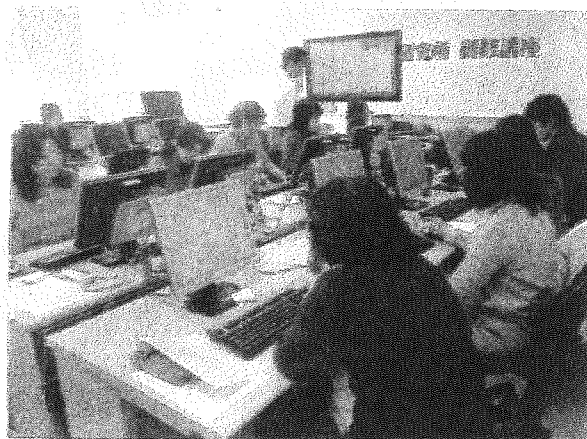
反省からは、講演の内容として、このインターネットの問題について学校がどう関わっていけるか具体的な事例などがほしかったという声もあった。確かに、ネットトラブルについては学校内で起きる問題ではないので学校の関わり方が難しい。家庭も含めて、どのようにこの問題を考えていくかの方向性は次への課題として残った感がある。また、期日を2学期開始直後の平日に設定したため、なかなか参加が難しいという声も聞かれた。適切な開催時期についても検討していく必要がある。



●【研修講座6】 「パソコン技術講座・エクセルの基礎」

「情報教育」「教育の情報化」がますます重要性を帯びる中、本講座は、表計算ソフト「エクセル」の基本的な活用法について、2つのファイル作成演習という形で実施された。

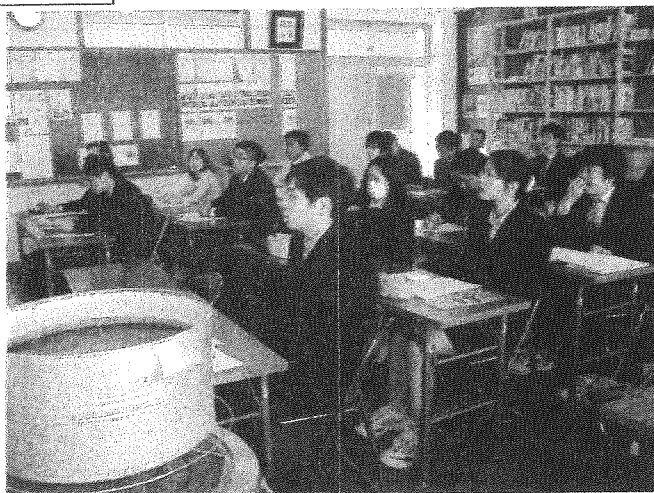
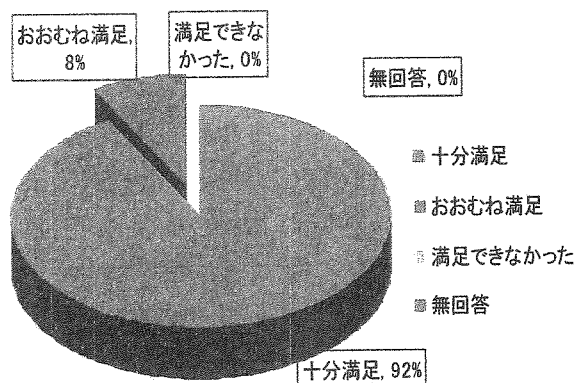
1つ目は、【テストの成績処理表作成】を通してであった。ここでは、まず、「文字入力」「罫線の引き方」「セルの大きさ調整」「挿入」「削除」等、表のデザインを中心に行った。次に、関数について学んだ。「合計」「平均」「評定」「カウント」等である。特に「評定」では、「60点未満であれば“C”」等、成績処理の中心となり得る関数を学ぶことができた。その他、「条件付き書式」で“ABCで色を変える”ことにも取り組んだ。



2つ目は、【出席集計表作成】を通してであった。内容としては、「シートのコピー」「シート間のリンク」等、1つ目よりも踏み込んだものであった。学期ごとの集計に加え、年間の合計も自動的に出るように作成したので、指導要録記入の際に大いに役立つものである。

2つのファイル作成を通して、表計算の基本を学ぶとともに、作成をより簡単にできる方法も知ることができた。今回学んだことは、更に様々なことに応用していくことができると考える。

参加者のアンケートも「たいへんわかりやすい」「今後活用していけるように、すぐに復習したい」「新たな機能を知ることができた」等、前向きな内容であった。加えて、「昨年度受講された先生から勧められて参加したが、参加してみて本当に良かった」という声もあった。本取組が一層広まり、今後、更に多くの先生方が今より少しでも「エクセル」を効果的に活用できるようになっていけば、学級事務や校務分掌等の仕事にかかる時間を短縮させ、空いた時間を児童生徒と向き合う時間に充てることもできる。情報機器やソフトのスキルアップは、教師自身のためだけではなく、児童生徒のためにもなっていくであろう。

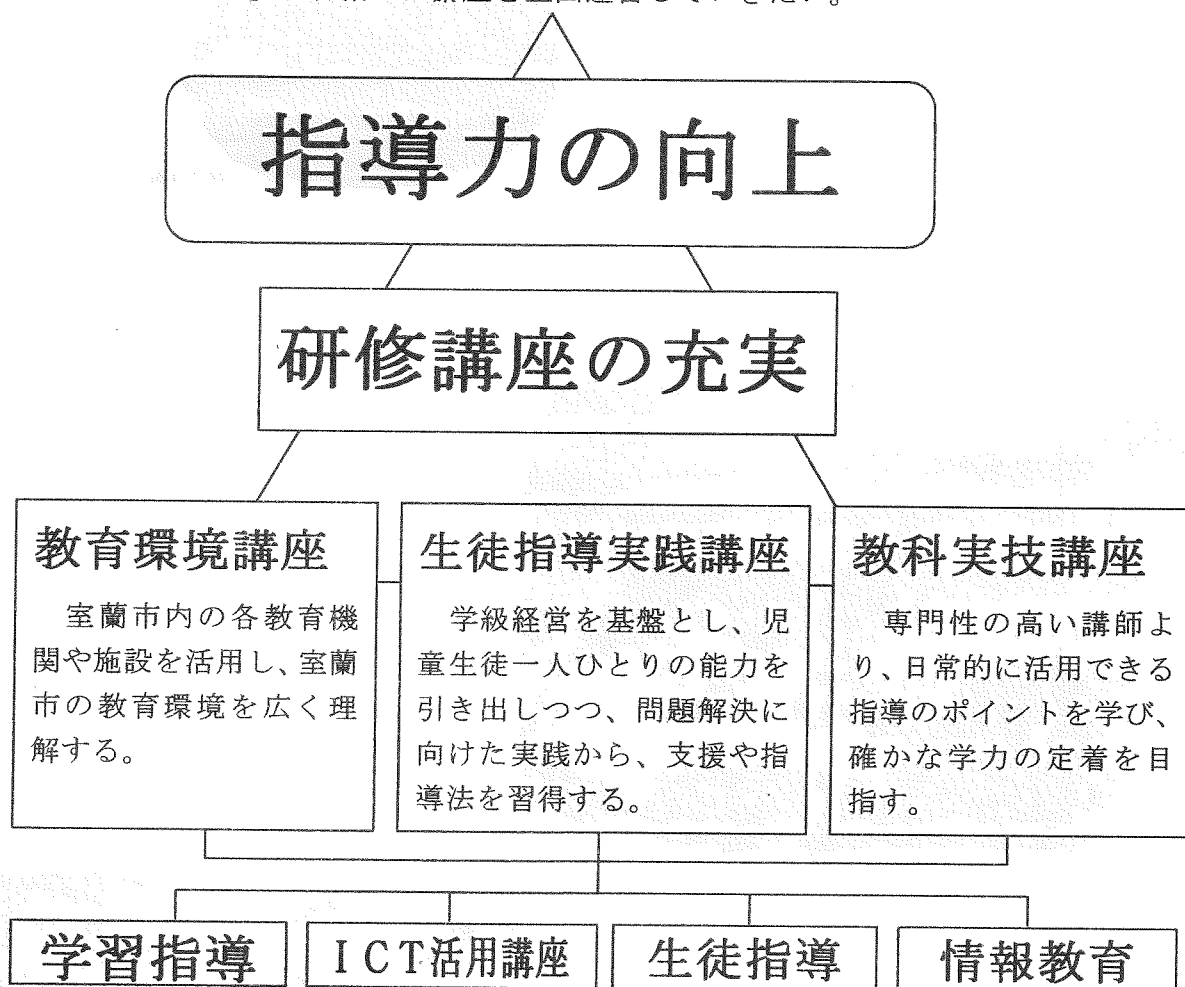


各事業の課題と展望

視点に関わる課題と展望

(2) 次年度への展望

今年度、事業部では講座の開設に向けて、【教育環境講座】【生徒指導実践講座】【教科実技講座】の大きく3つに分類し、計画を進めてきた。それぞれの利点を活かし、3年次は室蘭市内の教職員がよりニーズに応じた講座を選びやすく、また参加しやすくするために、長期休業中に講座を集中させるなど、講座を開設した。参加者アンケートからは、講座の内容は概ね良好ではあったが、参加者が少ないのが今後の課題でもある。今年度に引き続き、「指導力の向上」を目指した講座を企画運営していきたい。



指導力の向上の土台や近道となるのはやはり、「研修講座の充実」であると考えている。時代の移り変わりに沿った講座内容の焦点化を図り、より多くの方に参加してもらえるよう開催時期の検討や各校への講座の周知徹底が必要である。

次年度は研究所の組織を再編した上で、「学習指導」「ICT活用」「生徒指導」「情報教育」の分野で講座を設定していきたい。

IV 「調査部」の実践研究

1 「調査部」の研究

(1) 研究仮説

(2) 研究内容 3 「家庭と学校の連携による学習・生活習慣の醸成に向けての工夫」

(3) 事業計画

2 「家庭と学校の連携による学習・生活習慣の醸成」 に関わる手立ての概要

(1) 児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析

(2) リーフレット「家庭教育のすすめ」及び 「家庭教育のてびき」

<資料1> 「学習・生活習慣の傾向」(小学校・中学校)

<資料2> 「家庭教育のすすめ」

「調 査 部」の 所 員

部 長 立 石 晃 (高 砂 小 学 校)

副部長 棟 方 伸 吾 (東 明 中 学 校)

 宮 村 輝 敬 (知 利 別 小 学 校)

 梅 原 康 孝 (星 蘭 中 学 校)

IV 「調査部」の実践研究

1 「調査部」の研究

(1) 研究仮説

(仮説 3)

家庭と学校の連携を強化する手立てを明らかにし、学習・生活習慣の改善点や具体的な方法を互いに共有し活用することにより、児童生徒の学習・生活習慣の醸成が図られるだろう。

(2) 研究内容3「家庭と学校の連携による学習・生活習慣の醸成にむけての工夫」

(研究内容 3-1)

児童生徒の学習習慣に関わる調査と分析

※ 全国学力・学習状況調査の6年間および標準学力調査の5年間の活用

(研究内容 3-2)

児童生徒の「家庭と学校の連携による学習・生活習慣の醸成」にむけて、家庭に奨励すべき内容の選定

※ 家庭教育に関わるリーフレットの作成

※ 家庭と学校が連携して家庭教育を奨励できる冊子の活用法の検討

(3) 事業計画

1 学期	2 学期	3 学期
学力調査等の結果に基づく、児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析	「学習・生活習慣の醸成」に関わる手立てとしての家庭向け冊子の活用法の検討	○ 家庭向け冊子の配布 ○ 成果と課題のまとめ

2 「家庭と学校の連携による学習・生活習慣の醸成」に関わる手立ての概要

(1) 児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析

児童生徒の実態を客観的に把握する資料として、平成19年度から25年度の「全国学力・学習状況調査」の質問紙と平成21年度から25年度の「標準学力調査」の生活行動・学習活動調査の回答の集計結果を全国と比較し、全国との差が大きい項目をピックアップした。

中でも特徴的な10の項目をグラフ化することで室蘭の児童生徒の学習・生活習慣の傾向を視覚的に捉えられるようにした。

小・中学生ともに「テレビゲームの時間が2時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国より多いこと、「家で宿題をしている」「平日の学習時間が1時間以上」と回答した児童生徒の割合が低いことから、学習習慣がなかなか定着しない現状が明らかになった。

小学校では、「午後10時前には寝ている」と回答した児童が多く、増加傾向も見られることから生活習慣の改善が見られる一方、「自分には良いところがある」「学校の規則を守っている」と答えた児童の割合が低いことから、自己肯定感や規範意識の低下が懸念される。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた児童が昨年と比べて増加したことから、いじめに対する意識が高まっていることが明らかになった。

中学校では、「学校の規則を守っている」「いじめはいけない」と回答した生徒の割合が一定の水準を維持しており規範意識の高まりが感じられた。また「携帯電話やスマートフォンを持っている」と答えた生徒の割合が全国と同程度でありながら、「家の人と使い方について約束したことを守っている。」と答えた生徒の割合が高いことから、インターネットやメールなどに関わるトラブルに気を付けながら使用していることが明らかになった。

(2) リーフレット「家庭教育のすすめ」及び冊子「家庭教育のてびき」

室蘭市の児童生徒の実態を踏まえて学習・生活習慣の改善を図るために、小学校の低学年(1・2年生)、中学年(3・4年生)、高学年(5・6年生)及び中学生それぞれの家庭向けのリーフレットを作成した。

リーフレット作成にあたっては、家庭教育の必要性を訴えるとともに、生活習慣や学習習慣の改善ポイントを保護者に分かりやすい言葉で表現するように配慮した。

また、家庭教育の必要性を更に啓発するために全市で統一して使用できる冊子「家庭学習の手引き」も合わせて作成した。今年度は、学級懇談の資料として取り扱ったり配布後に保護者や生徒からアンケートを採ったりするなど、実際に活用する方法について検討してきた。

小学校の学級懇談では、「冊子に書かれている内容が子どもに分かりやすい。」「チェックシートを使って親子で確認できる。」「学校からの約束として子どもに話しやすい。」などの意見が多く聞かれ、保護者への啓発や情報交換の資料として役立てることができた。また、児童のよりよい学習環境や内容について、家庭への情報提供が効果的にできたと考えられる。しかしながら「配布時期を早めてほしい。」「これを使っても子どもが勉強するようになるとは思わない。」などの意見もあることから、今後はより保護者が使いやすい内容に改善していく必要があると考えられる。

中学校では、生徒にてびきを配布し内容や活用方法に関わるアンケートを採った。てびきに目を通した割合が9割と高く、保護者や生徒が興味をもって見ていたことが明らかになった。また、半数近くの家庭で保護者と生徒が学習方法について話をしたという回答があり、保護者から家庭学習の方法を生徒に指導する際の資料として大いに活用されたと考えられる。また、生徒からの意見として「チェック表を意識した生活にしていけることが必要である。」

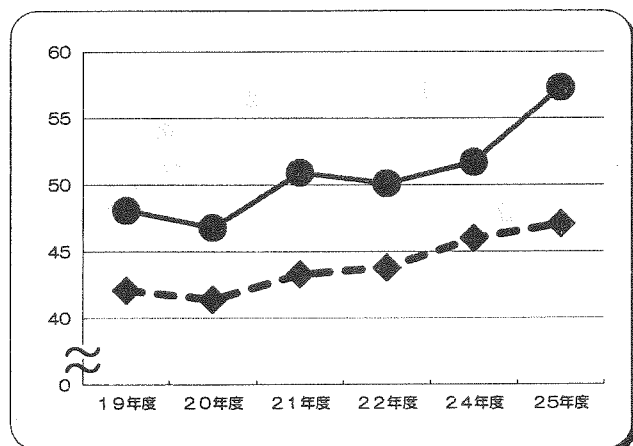
「どのように勉強を進めればよいのかがよく分かった。」などの意見も聞かれ、有効に活用されていることが分かった。しかしながら、生徒から「部活と両立させて勉強するにはどうしたらよいのか。」「他の人の勉強の仕方やノート作りの見本があると分かりやすい。」という意見や「計画的な取組やチェック体制をしっかりとしていく必要がある。」「定期的な働きかけが大切だ。」など保護者からの意見も聞かれた。生徒が置かれている状況を具体的に捉えていきながら、手引の内容を改善していく必要があると考えられる。

※資料1

学習・生活習慣の傾向（小学校）

①午後10時前には寝ている

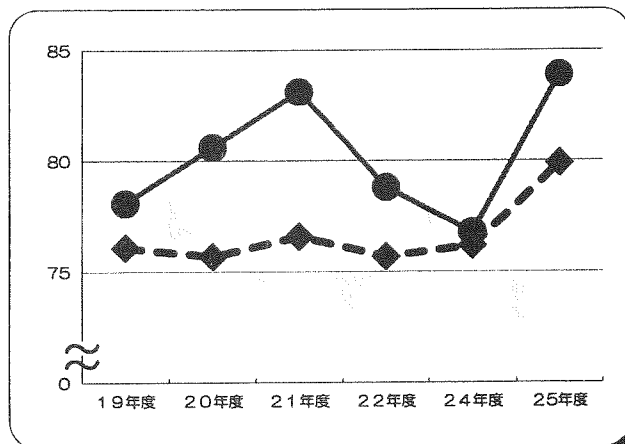
	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	48.1	46.8	50.9	50.1	51.7	57.3
全国	42.1	41.4	43.3	43.8	46	47.1
比較	6	5.4	7.6	6.3	5.7	10.2



室蘭市：●— 全国平均：◆---

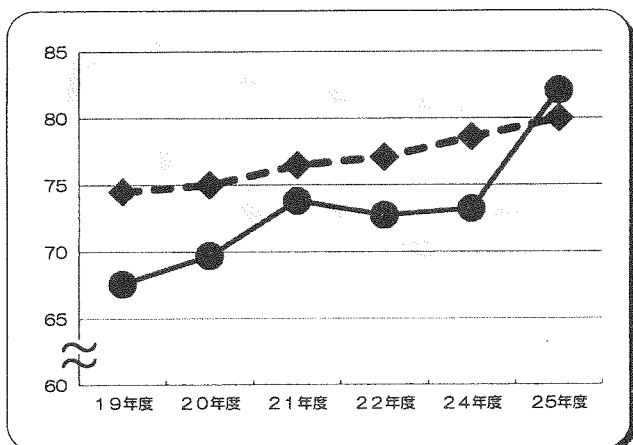
②いじめはどんな理由があってもいけない

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	78.1	80.6	83.1	78.8	76.8	83.9
全国	76.1	75.7	76.6	75.7	76.2	79.9
比較	2	4.9	6.5	3.1	0.6	4



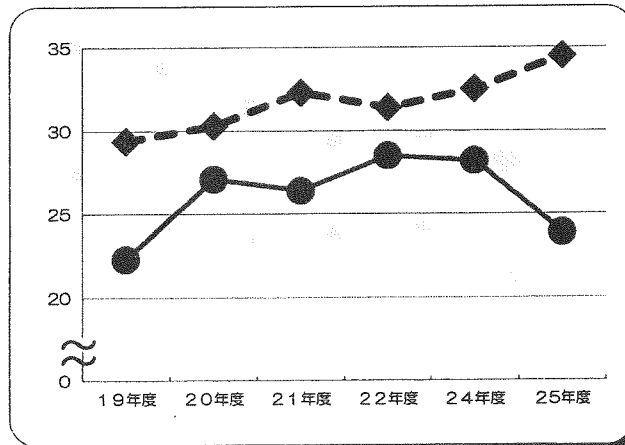
③平日、午前7時までに起きている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	67.6	69.7	73.8	72.7	73.2	82.1
全国	74.5	75	76.5	77.1	78.6	80
比較	-6.9	-5.3	-2.7	-4.4	-5.4	2.1



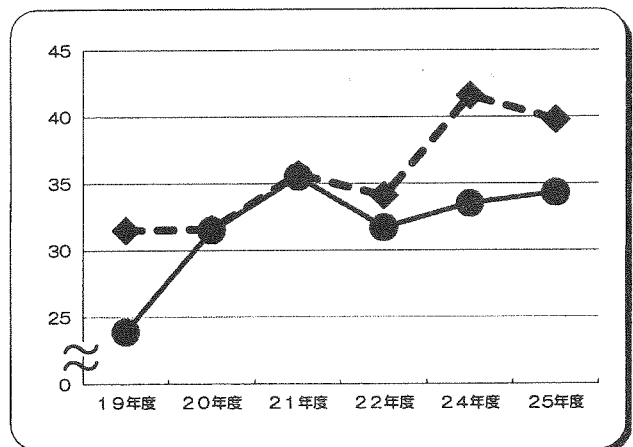
④自分には良いところがある

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	22.3	27.1	26.4	28.5	28.2	23.9
全国	29.4	30.3	32.3	31.4	32.5	34.5
比較	-7.1	-3.2	-5.9	-2.9	-4.3	-10.6



⑤学校の規則を守っている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	23.9	31.5	35.5	31.7	33.5	34.3
全国	31.5	31.6	35.7	34.1	41.6	39.8
比較	-7.6	-0.1	-0.2	-2.4	-8.1	-5.5



『午後10時前には寝ている』（項目①）と答えた児童の割合は、依然として全国に比べて高く、その割合も増加傾向であるなど、良い傾向が見られた。また、『午前7時までに起きている』（項目③）と答えた児童が今年度になって全国に比べて高い割合になった。このことから生活習慣については改善しているとわかる。

『いじめはどんな理由があってもいけない』（項目②）と答えた児童が増加し、いじめについての意識が高まったことがわかる。

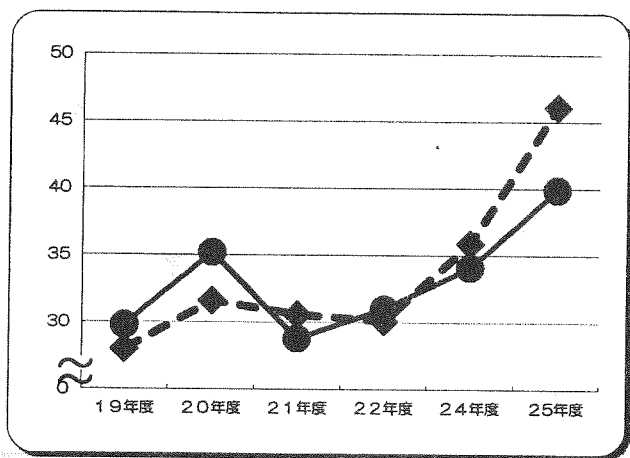
一方、『自分には良いところがある』（項目④）『学校の規則を守っている』（項目⑤）と答えた児童は、全国よりも低い水準にあり、自己肯定感や規範意識の低下が懸念される。特に項目④についてはさらに全国に比べて低い割合になった。

学習・生活習慣の傾向（小学校）

室蘭市：●— 全国平均：◆----

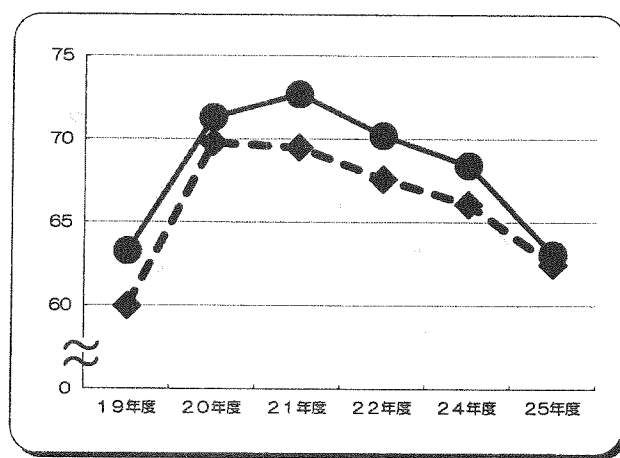
⑥携帯電話を持っている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	29.8	35.2	28.8	31	34.1	39.9
全国	28	31.6	30.6	30.1	35.9	46.1
比較	1.8	3.6	-1.8	0.9	-1.8	-6.2



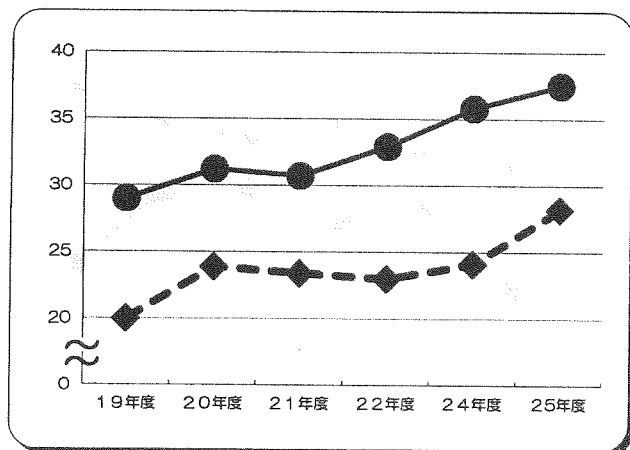
⑦平日、テレビやビデオ・DVDの視聴時間が2時間以上である

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	63.3	71.3	72.7	70.2	68.4	63.1
全国	60	69.8	69.5	67.6	66.1	62.5
比較	3.3	1.5	3.2	2.6	2.3	0.6



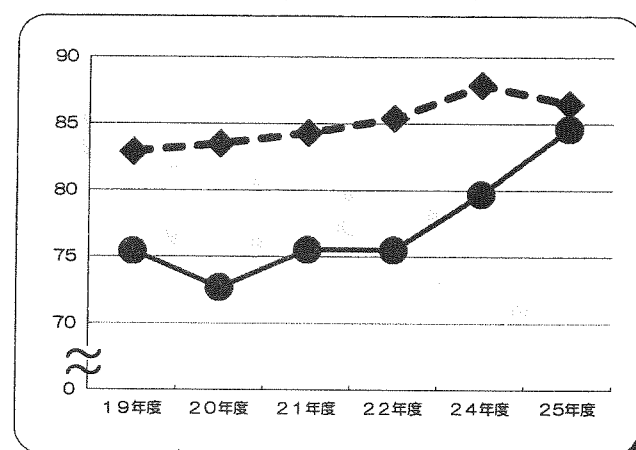
⑧平日、テレビゲームの時間が2時間以上である

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	29	31.2	30.7	32.9	35.8	37.5
全国	20	23.9	23.4	23	24.1	28.2
比較	9	7.3	7.3	9.9	11.7	9.3



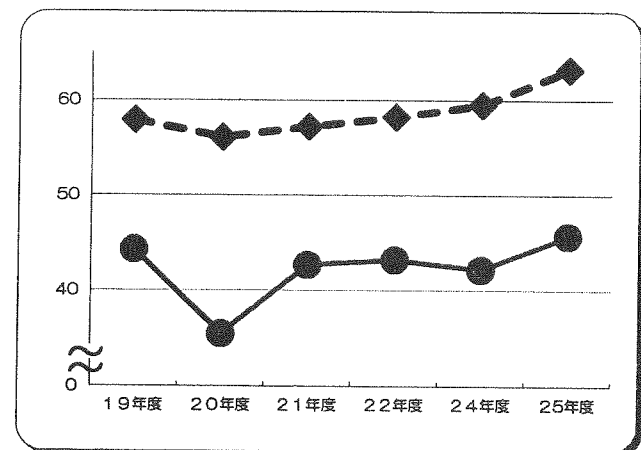
⑨家で宿題をしている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	75.4	72.7	75.5	75.5	79.7	84.6
全国	82.9	83.5	84.3	85.4	87.9	86.5
比較	-7.5	-10.8	-8.8	-9.9	-8.2	-1.9



⑩平日、学習時間が1時間以上である

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	44.3	35.5	42.7	43.2	42.2	45.7
全国	57.9	56.1	57.2	58.2	59.5	63.2
比較	-13.6	-20.6	-14.5	-15	-17.3	-17.5



『家で宿題をしている』（項目⑨）と答えた児童の割合は、全国よりは低いものの、改善傾向にあり家庭学習が定着しつつある。

しかし、『平日、学習時間が1時間以上である』（項目⑩）と答えた児童の割合が増加しているものの、依然全国と比べて低く、今後は家庭学習の時間をしっかりと確保する必要がある。

『テレビ等の視聴時間が2時間以上』（項目⑦）『テレビゲームの時間が2時間以上』（項目⑧）の児童の割合が高く、特にテレビゲームを2時間以上する児童が増加傾向にあることから、家庭での時間の使い方が課題となり、家庭学習が習慣化されない要因になっていると考えられる。

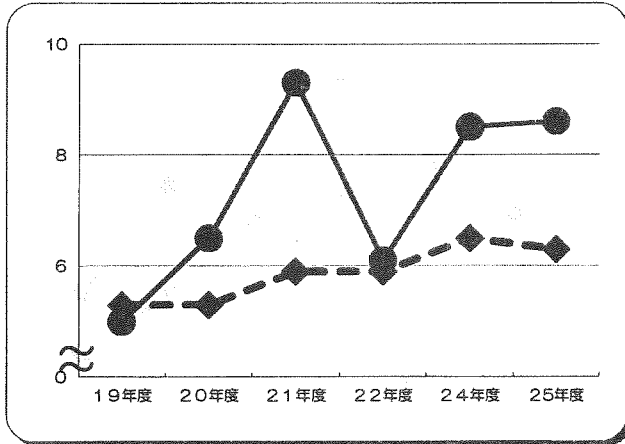
また、携帯電話を持っている児童が全国的にも急激に増加しており、メールやインターネットを通じたトラブルに巻き込まれる心配がある。

学習・生活習慣の傾向（中学校）

室蘭市：●— 全国平均：◆---

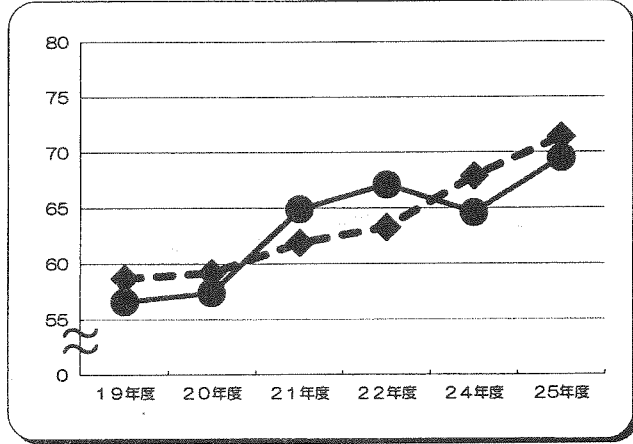
①午後10時前には寝ている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	5	6.5	9.3	6.1	8.5	8.6
全国	5.3	5.3	5.9	5.9	6.5	6.3
比較	-0.3	1.2	3.4	0.2	2	2.3



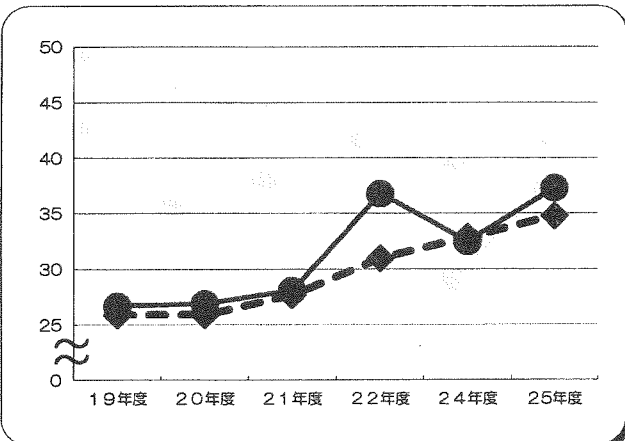
②いじめはどんな理由があってもいけない

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	56.6	57.4	64.9	67.1	64.6	69.5
全国	58.7	59.2	61.9	63.3	67.9	71.4
比較	-2.1	-1.8	3	3.8	-3.3	-1.9



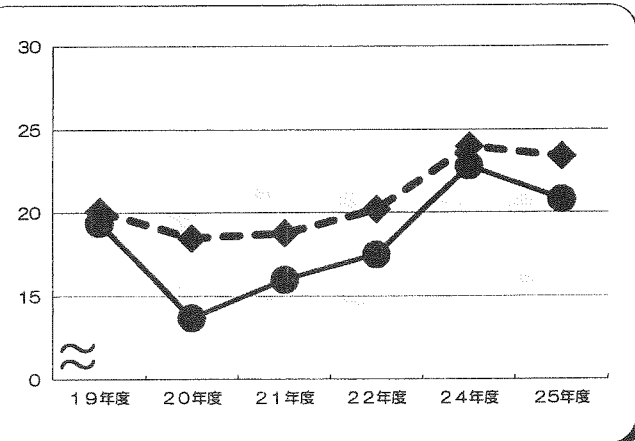
③家の人と学校での出来事について話をしている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	26.7	26.9	28.1	36.8	32.5	37.3
全国	25.9	25.9	27.7	31	32.9	34.8
比較	0.8	1	0.4	5.8	-0.4	2.5



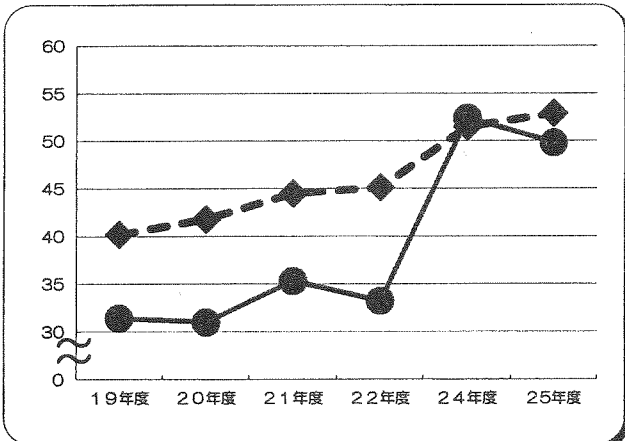
④自分には良いところがある

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	19.4	13.7	16	17.5	22.8	20.8
全国	20.1	18.5	18.8	20.2	24	23.4
比較	-0.7	-4.8	-2.8	-2.7	-1.2	-2.6



⑤学校の規則を守っている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	31.4	31	35.3	33.2	52.4	49.8
全国	40.2	41.8	44.5	45.1	51.5	52.9
比較	-8.8	-10.8	-9.2	-11.9	0.9	-3.1



『いじめはいけない』（項目②）と答えた生徒の割合が、全国・室蘭ともに増加傾向。室蘭市では、「どちらかといえばあてはまる」を含めると9割の生徒がいじめはいけないという認識を持っている。

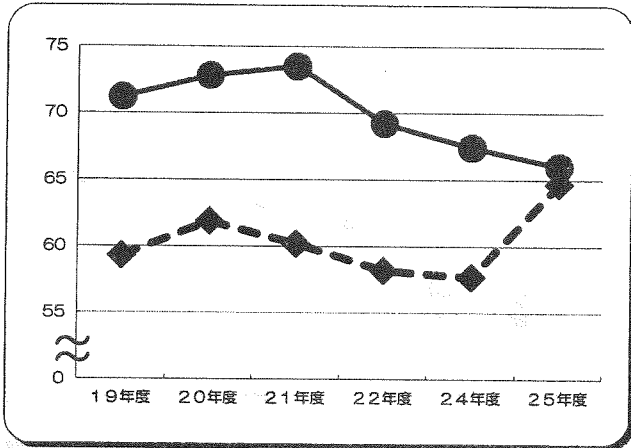
『自分には良いところがある』（項目④）と答えた生徒と「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒を含めても、昨年度より低下傾向（室蘭市昨年度比-4.6）にあり、自己肯定感について、若干の低下傾向があった。

『携帯電話やスマートフォン』（項目⑥）について、室蘭市では、「家の人と使い方について約束したことを守っている（だいたい守っているを含む）」と答えた生徒は、77.4%（全国比+3.9%）と約8割の生徒が約束を守っている。

学習・生活習慣の傾向（中学校）

⑥携帯電話やスマートフォンを持っている

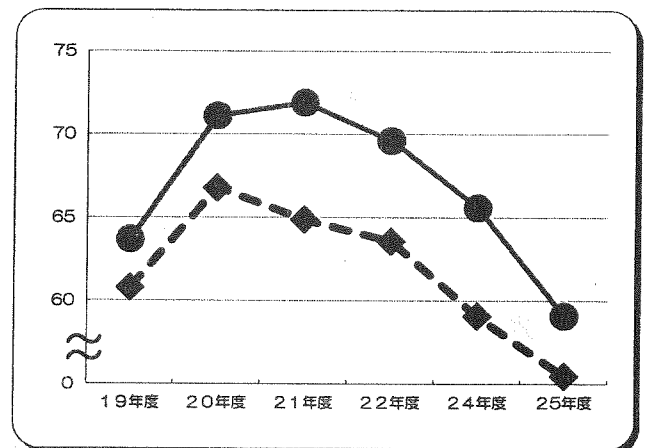
	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	71.2	72.8	73.5	69.2	67.4	66
全国	59.3	61.9	60.2	58.2	57.7	64.7
比較	11.9	10.9	13.3	11	9.7	1.3



室蘭市：—●— 全国平均：---◆---

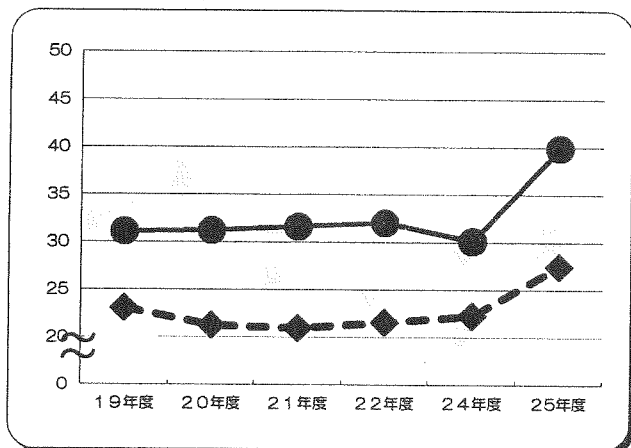
⑦平日、テレビやビデオ・DVDの視聴時間が2時間以上である

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	63.7	71.1	71.9	69.6	65.6	59.1
全国	60.8	66.8	64.9	63.6	59.1	55.5
比較	2.9	4.3	7	6	6.5	3.6



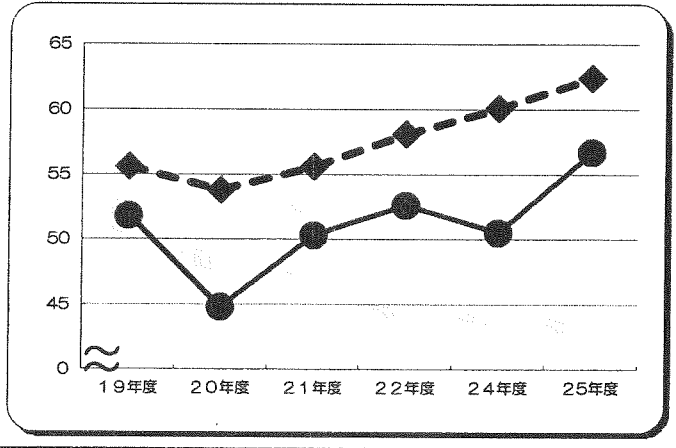
⑧平日、テレビゲーム（携帯式ゲームを含む）の時間が2時間以上である

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	31.1	31.2	31.6	32	30.1	39.9
全国	23.1	21.3	21	21.6	22.3	27.5
比較	8	9.9	10.6	10.4	7.8	12.4



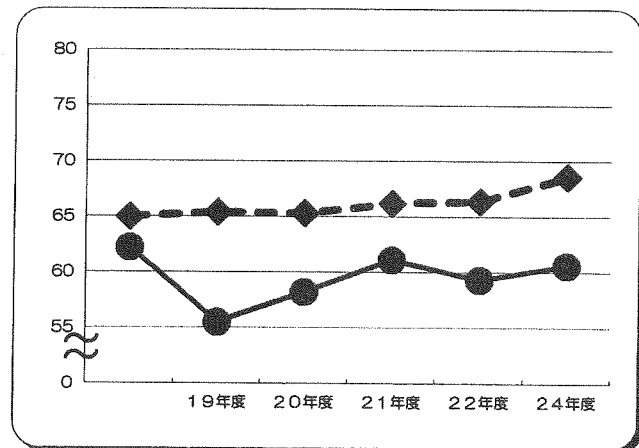
⑨家で宿題をしている

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	51.8	44.8	50.3	52.6	50.5	56.7
全国	55.6	53.8	55.6	58.1	60.1	62.4
比較	-3.8	-9	-5.3	-5.5	-9.6	-5.7



⑩平日、学習時間が1時間以上である

	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年度
室蘭市	62.2	55.5	58.2	61.1	59.3	60.6
全国	65	65.4	65.3	66.2	66.4	68.6
比較	-2.8	-9.9	-7.1	-5.1	-7.1	-8



『テレビ等の視聴時間が2時間以上』（項目⑦）と答えた生徒の割合は、全国平均・室蘭市ともに低下傾向にあるが、『テレビゲーム（携帯式ゲームを含む）の時間が2時間以上』（項目⑧）では、全国平均に比べて高く、室蘭市では昨年度より約10%増加。スマートフォン向けゲームやタブレットの普及が影響していると考えられる。

『平日の学習時間が1時間以上』（項目⑩）と答えた生徒の割合が全国に比べて低い、宿題を家で行っている生徒が増加傾向（+6.2）であるが、全国平均よりも約10%低い。

『学習時間が1時間以上である』（項目⑩）では、室蘭市の全体としての値は大きな変化がないが、学習時間が増えている生徒の割合が微増傾向。家庭学習を全くしないと答えた生徒割合に大きな変化はみられなかった。

家庭教育のすすめ(案)

～子どもたちの「確かな学力」と「健やかな体」を育てるために～

室蘭市教育研究所

児童生徒の学力と体力の向上に向けて

室蘭市教育研究所 所長 高見 恭介

室蘭市教育研究所では、本市児童生徒の学力と体力の向上を図るため、この度、「家庭教育のすすめ」を作成しましたので、お伝えいたします。

現在、市内全小中学校においては、学力向上に向けた具体的な取組を進めており、一定の成果が見られるものの、依然として室蘭市の学力の平均が全国平均より低い状況にあります。また、平成25年度全国体力・運動能力調査におきましても、室蘭市の平均が全国平均を下回る結果となっています。

児童生徒の学習・生活・運動習慣の確立のためには、家庭・学校・地域の三者がそれぞれの役割と責任を自覚し、支え合うことが大切であり、子どもたちは、三者の教育力の相互作用の中で健全に育まれていくものと考えておりますので、今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

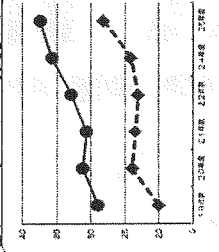
室蘭市の小学生の生活・学習・運動習慣の課題～全国と比較～

全国学力学習状況調査(資料①～③)や全国体力・運動能力・運動習慣等調査(資料④)の結果から、室蘭市の小学生の生活・学習・運動習慣の課題が明らかになりました。(グラフは室蘭市を赤色、全国平均を青色で示しています。)

①テレビゲーム2時間以上！？

平日のテレビゲームをする時間が2時間以上である児童の割合(グラフ①)、平日のテレビ、ビデオ・DVDの視聴時間が2時間以上である児童の割合が全国に比べてかなり高いことがわかりました。

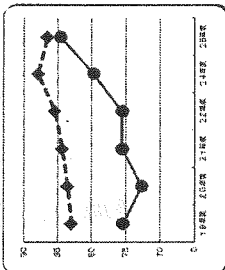
①テレビゲーム2時間以上



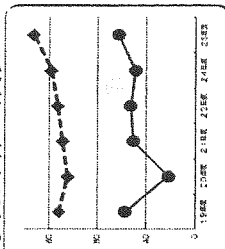
②家で宿題していない!!? 家庭学習1時間以下!?

家で宿題をする児童の割合(グラフ②)が高くなり、家庭学習をする習慣が身に付いてきているものの、家庭学習を1時間以上勉強する児童の割合が低く、学習内容の工夫が必要であることがわかりました。

②家で宿題をする



③家庭学習1時間以上

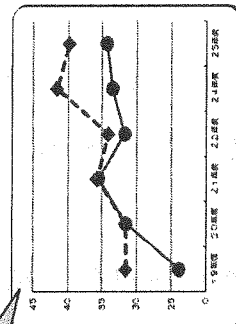


③規範意識の低下・など!?

学校の規則を守っている児童の割合(グラフ④)が全国と比較して低い割合にあることから、規範意識の低下が懸念されます。

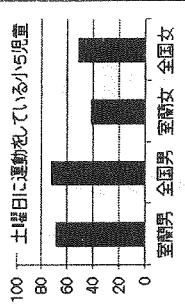
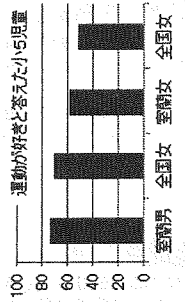
しかし、いじめはどんな理由があってもいけないと考えている児童の割合が増加していることがわかりました。

④学校の規則を守っている



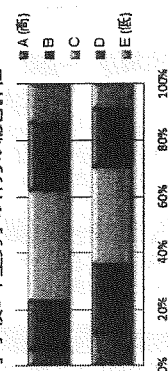
④室蘭市児童の運動の状況 全国体力調査(小5)より

室蘭市の児童は運動が好きと答えた小5児童が好きなあるが、土日に運動をする児童は全国より少ないことがわかりました。

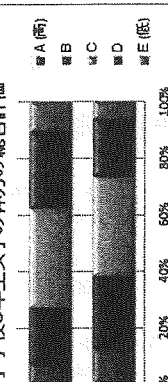


全国体力調査(5年生)の総合評価では、実技の成績が良かったAやBの割合が、全国を大きく下回っています。種目別では、男女とも50m走や反復横とび、シャトルランなどにおいて全国との差が大きい結果となっています。

小学校5年生男子の体力の総合評価



小学校5年生女子の体力の総合評価



低学年(1・2・3年)において

生活・運動習慣の基礎を！

●食事、就寝、起床の時刻を決め、

生活リズムを大切にしましょう。

- ・「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。
- ・朝ご飯は、元気の素、考える力の素です。また、バランスのよい食事は、健康でたくましい体をつくりまします。
- ・睡眠時間は、9時間以上を確保しましょう。
- ・あいさつ、洗面、歯磨きなどの基本的な生活習慣が、生活リズムをつくりまします。

●テレビを見たり、ゲームをしたい時間は時間を決めましょう。

- ・お子さんと家族で決めた時間に、決めた番組だけを見るなど、計画性を持ってテレビやゲームを楽しませましょう。誘惑に打ち勝つことで、がまん強さや集中力も養われます。
- ・テレビやゲームのやり過ぎは、生活リズムを崩す原因になるとともに家庭学習の妨げになります。また、運動不足や健康を害することにもつながります。
- ・家族みんなで協力することが大切です。

●食事は一緒にことり、

学校での出来事などを話題にしましょう。

- ・楽しい食事は、元気の素。家族の団らんの中で、学校での出来事などを聞いて、お子さんががんばっていることや困っていることなどの理解に努めましょう。家族とのコミュニケーションは、一番の心の栄養です。

●子どもにも簡単な家事の分担をしましょう。

- ・お手伝いすることで、責任感や自立心が育ちます。お手伝いを進んで行なえるようにしましょう。

●適度な運動と健康的な遊びに配慮しましょう。

- ・休日を利用してスポーツを楽しむなど、運動習慣をつくりましょう。
- ・室内でのゲームばかりではなく、晴れた日は外で友人と体を動かして遊ぶなど、健康的な遊びに配慮しましょう。

学習習慣の基礎を！

●やる気を大切にしましょう。

- ・お子さんががんばれるように励ましたり、がんばったことをほめたりしてあげましょう。自信を持たせ、進んで学習しようという意欲を高めることが大切です。低学年のうちは、学習を見守ってあげてください。

●学習時間を確保しましょう。

- ・宿題や家庭学習を始める時刻や終わる時刻は、お子さんと一緒に決めて、決めたことを守らせるようにしましょう。

家庭学習時間のめやす

10分×学年+10分

1 学年～20分

2 学年～30分

3 学年～40分

●学習用具や教材がどうっているか、点検しましょう。

- ・机の上の整理整頓をさせ、学習に必要なものをそろえさせましょう。学ぶ雰囲気づくりから、習慣化を図りましょう。
- ・家庭学習の終わりには、翌日の学習準備をして、忘れ物がないか確認させましょう。

●家庭学習をしているときは、テレビを消しましょう。

- ・テレビを見ながらの勉強は、もちろんいけません。テレビの音が聞こえる環境では子どもは集中できません。学習中はテレビを消すなど、家族の協力が必要です。

●読み聞かせてあげたり、興味・関心に合う本を

見つけたら、読書習慣が身に付くようにしましょう。

子どもを読書好きにするポイント

- ①子ども自身に本を選ばせる
- ②親と一緒に楽しむ
- ③地域の図書館を休日の家族のお出かけ場所に



高学年(4・5・6年)において

生活・運動習慣の基礎を！

●食事、就寝、起床の時刻を決め、

生活リズムを大切にしましょう。

- ・「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。
- ・朝ご飯は、元気の素、考える力の素です。また、バランスのよい食事は、健康でたくましい体をつくりまします。
- ・睡眠時間は、8時間以上を確保しましょう。
- ・あいさつ、洗面、歯磨きなどの基本的な生活習慣が、生活リズムをつくりまします。

●テレビを見たり、ゲームをしたい時間は時間を決めましょう。

- ・自分と家族で決めた時間に、決めた番組だけを見るというように、計画性を持ってテレビやゲームを楽しませましょう。誘惑に打ち勝つことで、がまん強さや集中力も養うことができます。
- ・テレビやゲームのやり過ぎは、生活リズムを崩す原因になるとともに家庭学習の妨げになります。また、運動不足や健康を害することにもつながります。
- ・家族みんなで協力することが大切です。

●食事は一緒にことり、

学校での出来事などを話題にしましょう。

- ・楽しい食事は、元気の素。家族の団らんの中で、学校での出来事などを聞いて、お子さんががんばっていることや困っていることなどの理解に努めましょう。家族とのコミュニケーションは、一番の心の栄養です。

●インターネットや携帯電話の

使い方のルールを決め、徹底しましょう。

- ・有害サイトについては、フィルタリングをかけるなどしましょう。
- ・学校への携帯電話の持ち込みは、原則禁止となっています。

●適度な運動と健康的な遊びに配慮しましょう。

- ・休日を利用してスポーツを楽しむなど、運動習慣をつくりましょう。
- ・室内でのゲームばかりではなく、晴れた日は外で友人と体を動かして遊ぶなど、健康的な遊びに配慮しましょう。

学習習慣の基礎を！

●やる気を大切にしましょう。

- ・お子さんががんばれるように励ましたり、がんばったことをほめたりしてあげましょう。間違いをとがめたりするのは逆効果になります。自信を持たせ、進んで学習しようという意欲を高めることが大切です。

●学習時間を確保しましょう。

- ・宿題や家庭学習を始める時刻や終わる時刻は、お子さんと一緒に決めて、決めたことを守らせるようにしましょう。

家庭学習時間のめやす

10分×学年+10分

4 学年～50分

5 学年～60分

6 学年～70分

●学習用具や教材がどうっているか、点検しましょう。

- ・机の上の整理整頓をさせ、学習に必要なものをそろえさせましょう。学ぶ雰囲気づくりから、習慣化を図りましょう。
- ・家庭学習の終わりには、翌日の学習準備をして、忘れ物がないか確認させましょう。

●家庭学習をしているときは、テレビを消しましょう。

- ・テレビを見ながらの勉強は、もちろんいけません。テレビの音が聞こえる環境では子どもは集中できません。学習中はテレビを消すなど、家族の協力が必要です。

●本に親しみ、読書習慣が身に付くようにしましょう。

子どもを読書好きにするポイント

- ①子ども自身に本を選ばせる
- ②親と一緒に楽しむ
- ③地域の図書館を休日の家族のお出かけ場所に



家庭教育のすすめ(案)

～子どもたちの「確かな学力」と「健やかな体」を育てるために～

室蘭市教育研究所

児童生徒の学力と体力の向上に向けて

室蘭市教育研究所 所長 高見 恭介

室蘭市教育研究所では、本市児童生徒の学力と体力の向上を図るため、この度、「家庭教育のすすめ」を作成しましたので、お伝えいたします。

現在、市内全小中学校においては、学力向上に向けた具体的な取組を進めており、一定の成果が見られるものの、依然として室蘭市の学力の平均が全国平均より低い状況にあります。また、平成25年度全国体力・運動能力調査におきましても、室蘭市の平均が全国平均を下回る結果となっています。

児童生徒の学習・生活・運動習慣の確立のためには、家庭・学校・地域の三者がそれぞれの役割と責任を自覚し、支え合うことが大切であり、子どもたちは、三者の教育力の相互作用の中で健全に育まれていくものと考えておりますので、今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

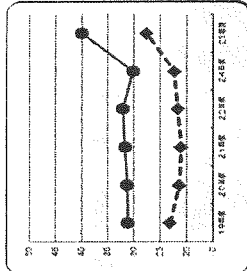
室蘭市の中学生の課題～生活・学習・運動習慣～

全国学力学習状況調査(資料1～3)や全国体力・運動能力・運動習慣等調査(資料4)の結果から、室蘭市の中学生の生活・学習・運動習慣における課題が明らかになりました。(グラフは室蘭市を赤色、全国平均を青色で示しています。)

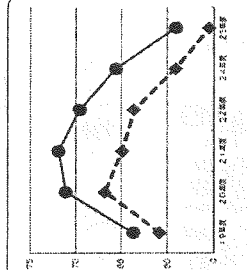
1. テレビの視聴時間減少 ゲーム2時間以上の割合が増加

平日のテレビゲームをする時間が2時間以上の生徒の割合(グラフ①)や、テレビ・DVDの視聴時間が2時間以上の生徒の割合(グラフ②)が全国に比べ高いことがわかりました。

①テレビゲーム2時間以上



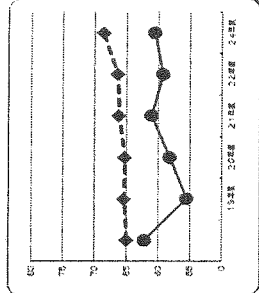
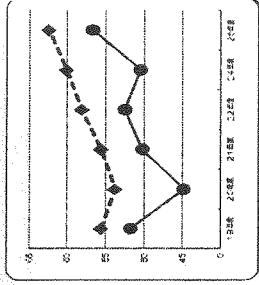
②テレビ等視聴時間2時間以上



2. 家庭学習の習慣化向上 学習時間と質の向上が課題

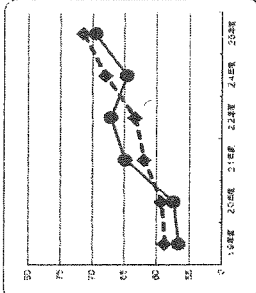
家で宿題をしている生徒 ③家で宿題をする ④家庭学習時間が1時間以上

(グラフ③)は増えているが、平日の家庭学習が平均1時間以上の割合(グラフ④)は低く、家庭での学習時間と質を高めていくことが学力向上につながります。



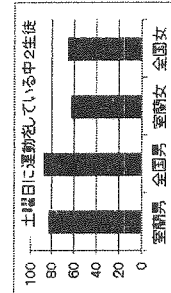
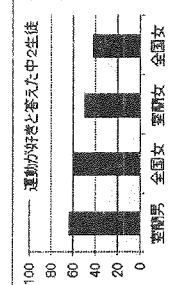
3. いじめはいいけないことという認識が向上

『いじめはどんな理由があってもいけないこと』(グラフ⑤)といじめはいいけないこと(グラフ⑥)と答えた生徒の割合は増加傾向にあり、「どちらかといえばあてはまると」を含めると9割を超えることがわかりました。いじめは、「どの子どもにも、どの学校においても起こり得る」ものであることを十分に認識し、「人間として絶対に許されない」という意識を育てていくことが大切です。

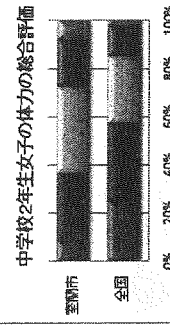
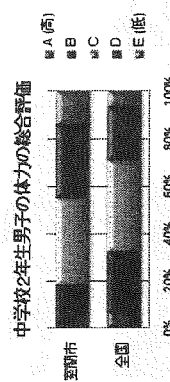


4. 室蘭市生徒の運動の状況 全国体力調査(中2)より

室蘭市の生徒は運動が好きではあるが、土日に運動をする生徒や運動部に所属する全国より少ないことがわかりました。また、全国体力調査の総合評価では、実技成績が良かったAやBの割合が、全国を大きく下回っています。種目別では、ほとんどの種目で全国や全道を下回っており、男子では50m走、女子では上体起こしがもともと全国との差が大きい結果となっています。



中学校2年生男子の体力の総合評価



規則正しい生活と運動習慣を！

起床・就寝・食事の時間を決め、生活リズムを大切にしましょう。

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」は生活リズムの大原則です。
- ・朝ごはんは元気の素、考える力の素です。また、バランスのよい食事は、健康でたくましい体をつくれます。
- ・挨拶、洗面、歯磨きなどの基本的な生活習慣が、生活リズムをつくれます。

食事は一緒に摂り、学校での出来事などを話題にしましょう。

- ・楽しい食事は元気の素。家族の団らんの中で学校での出来事などを聞いて、お子さんが頑張っていることや困っていることなどの理解に努めましょう。家族とのコミュニケーションは、一番の心の栄養です。

適度な運動と健康的な遊びに配慮しましょう。

- ・部活動や休日を利用したスポーツなど、運動習慣をつくりましょう。
- ・室内でのゲームばかりではなく、晴れた日は外で友人と体を動かして遊ぶなど、健康的な遊びに配慮しましょう。

テレビを見たりゲームをしたりする時間を決めましょう。

- ・お子さんと家族で決めた時間に、決めた番組だけを見るなど、計画性を持ってテレビやゲームを楽しませましょう。誘惑に打ち勝つことで、我慢強さや集中力も養われます。それには家族みんなで協力することが大切です。
- ・テレビやゲームの時間の増加は、生活リズムを崩す原因になるとともに家庭学習の妨げになります。また、運動不足や健康を言うことにもつながります。

インターネットや携帯電話の使い方のルールを決め、徹底しましょう。

- ・使ってもよい場所、時間、保管する場所などを決め、使用状況を把握できるようにしましょう。また、学校への携帯電話の持ち込みは原則禁止となっています。
- ・有害サイトについては、フィルタリングをかけるなどしましょう。

学習習慣・学ぶ意欲を！

家庭学習を習慣化しましょう。

- ・毎日時間を決めて家庭学習に取り組みましょう。予習・復習を中心に、日常的に一定時間の学習が大切です。
- ・家庭学習の目安は、学年（中1は7）×10分+10分以上とされています。

集中しやすい学習環境を整えましょう。

- ・机の周りを整理整頓し、学習に必要なものを準備して、学ぶ雰囲気づくりから習慣化させましょう。
- ・テレビを見ながら、音楽を聴きながらの勉強はいけません。学習中はテレビを消すなど家族の協力も必要です。

学校での学習の様子を話題にしましょう。

- ・学習内容などを話題にあげ、学習状況・定着度などを確認しましょう。
- ・お子さんの頑張りを認め、ほめたり励ましたりすることが、やる気や学習意欲の向上につながります。

読書を通して思考力や想像力が身に付くようにしましょう。

- ・活字からイメージを膨らませる力は様々な教科の学習で必要不可欠です。マンガや雑誌ばかりではなく、読書に親しむ習慣を身に付けさせましょう。

新聞やテレビのニュースを通して社会の出来事に関心を持つようにしましょう。

- ・社会に目を向け、様々なことを考えさせたり経験させたりしましょう。
- ・地域の図書館やイベント、ボランティア活動にも積極的に参加させましょう。

子どもたちの「生きる力」を育てためには、
学校・家庭・地域の連携と協力が不可欠です

家庭

学校

地域